

千葉県ノリ養殖業生産振興計画(改訂)の概要

改訂の趣旨：生産振興計画の改訂

R11 目標 (3 地区共通)

現状に即した内容に改訂する

3 地区共通の課題を明確にして振興方針・方策を示した上で地区別の振興方針を取りまとめる形で改訂する

- ① 1 経営体当たり共販出荷枚数 10%向上 (689 千枚→758 千枚)
- ② 共販出荷枚数の合計 70,500 千枚

3 地区共通

改訂の主な背景

課題・振興方針・主な方策

東京湾の養殖環境の変化や経営体数・生産枚数の減少

- ① 海水温の上昇
ノリ養殖業が営まれている 10 月から 4 月にかけて平均で 0.22℃上昇 (2000 年代と直近 10 か年を比較)
- ② 経営体数の減少
190 経営体 (H29) → 93 経営体 (R6)
- ③ 生産枚数の減少 (R5)
過去最低の 66,000 千枚、一方で単価は過去最高の 24.27 円/枚
- ④ 栄養塩不足
窒素やリンなどのノリの生育に不可欠な栄養塩が減少傾向

養殖環境の変化に適応した生産体制の整備や技術開発、担い手対策により、経営体の生産力強化を図る

- ① 海水温上昇の影響による養殖適期の短縮
→ 新たな高水温耐性種の導入検討
- ② 経営体数の減少や後継者・新規就業者の不足
→ 短期漁業体験等の活用による新規就業者の確保・育成
- ③ ノリの短縮化
→ 防除ネット効果向上のための水中光、食害軽減のためのエサ場
→ 生産性の回復のための二次芽多放出性のある新品種の開発
- ④ 防除ネットの導入や設置に伴う新たなコストや労力の発生
→ 食害生物の適切な管理と効率的な漁法の技術開発
- ⑤ 必要とされるその他の方策
→ 青混ぜ海苔の安定生産及び生産枚数の増加
→ 栄養塩不足や短縮化の影響を受けにくい養殖適地や漁場の有効活用の検討
→ 陸上養殖導入の検討
→ 新品種「CTBFL-P241」のブランドイメージ構築 など

地区別

地区の概要

課題・主な方策

富津地区

(富津市、44 経営体/R6)

- ・ 県内生産のうち、約 7 割を占める主産地
- ・ 富津岬北側の海域は北西風の影響、南側の海域は沖合水の影響を受けやすい
- ・ 専業者が多く、生産規模も大きい

- ① 経営体数の減少が最も顕著
→ 地域おこし協力隊制度*の活用による新規就業者の確保・育成
- ② 共同加工施設の人手不足
→ 組合自営事業と共同加工施設の運用を組み合わせる雇用形態を検討

*富津市のみ対象地域

木更津地区

(木更津市、38 経営体/R6)

- ・ 北西風の影響により操業日数が限られる
- ・ 貝類漁業との複合経営で生産規模は小さい

- ① 生産者の高齢化が顕著
→ 組合自営による新規就業候補者の確保・育成や生産体制づくりを検討
→ 海上作業の共同化による生産体制の整備

千葉北部地区

(市川市・船橋市、11 経営体/R6)

- ・ 江戸川から豊富な栄養塩の供給がある一方、赤潮が発生しやすい
- ・ 個人経営体のほか組織的な大規模経営まで様々

- ① 少ない経営体数
→ 採貝漁業や漁船漁業を営む経営体の新規参入を推進
- ② ノリ加工場の立地条件(都市部)や老朽化による養殖継続への支障
→ 個人施設の共同利用による加工の集約化